

分配政策と財政

香取 照幸

(上智大学総合人間科学部社会福祉学科教授／一般社団法人未来研究所臥龍 代表理事)

菅義偉前首相の突然の辞任表明に始まり、自民党総裁選、岸田文雄新総裁の誕生、首班指名、解散総選挙、そして与党の絶対安定多数を確保しての勝利と、2021年の政治は目まぐるしく動き、2022年通常国会の開幕となった。

オミクロン株の急速な拡大で再び感染拡大の兆候が見える中、COVID-19禍収束の見通しは依然として立たない。当面の最大の政治課題が、COVID-19対応とともに、傷んだ経済をどう立て直すか、そして疲弊した国民生活をどう支えるかであることは論を待たないだろう。

危機は常に社会で最も弱い層を直撃する。COVID-19禍で改めて浮き彫りになった格差の問題をどう解決するのか、格差を生んだ一因でもあるこの間の経済政策をどう変えるのか、さらにはそれらの対策の財源確保を含め、すでに巨額の赤字を抱えている国家財政をどう立て直していくのか、それぞれ深く関係する3つの基本問題で、政治に関わる人々には責任ある政策論争が求められる。

1. 「分配」を出発点にした成長戦略への転換

格差の拡大は世界中で進行しており、各国経済の成長の足枷になっていることはOECD（経済協力開発機構）も指摘している。

格差の拡大は中間層の崩壊を招き、社会と経済のみならず、政治の安定を支える社会の中核層がいなくなることを意味する。そのため発展途上国のみならず、先進国でも社会の

分断・遠心化、左右両極政党の伸長が顕著になってきている。

つまりこの問題は経済の問題にとどまらない。大袈裟ではなく、民主主義の危機、統治の危機を招きかねない重大問題であり、格差問題にどう取り組むかは日本においても最大の政治課題と認識すべきであろう。

岸田首相が提唱する「分配と成長の好循環」「中間層拡大」という「分配重視」の政策に対しては、早速に「分配する原資はどうするのか、成長しなければ話にならない」という批判が出ている。批判を意識してか、岸田総理の言い方も「分配」と「成長」の順番を入れ替えて「成長と分配の好循環」という表現に変わったようである。

成長なくして分配なし、まず成長が大事だ、というのはその通りだが、そうであるなら、では今までの成長戦略、アベノミクスを支えてきた「リフレ派」、さらに言えば主流派経済学に基づく積極財政—財政出動主導の経済政策がどの程度効果があったのか、民間部門の自律的成長が実現できたのかということが問われなければならないだろう。

第二次安倍政権の7年8ヶ月、結局は財政赤字を積み上げ、格差を拡大しただけで所期の目標である「物価上昇率2%、名目成長率3%の安定的・持続的成長」は一度も実現できなかった。

いや、大きく言えば2度の政権交代を挟んでこの20年余り、歴代政権が毎年のように作ってきた成長戦略はいずれも結果を出せてい

ないのだ。

とすれば、今問われているのは、依って立つ経済理論にまで立ち戻って、「経済政策—成長戦略の発想の転換」「成長のトリガー（引き金）の転換」、という「政策の組み立てそのものの再構築」なのではないのか。

慶應大学の権丈善一教授は、「右側の経済学と左側の経済学」という表現で、供給サイド重視、トリクルダウン型の経済政策理論と分配重視・需要重視の経済政策理論を対比している。そしてこれまで学会でも現実の政策形成への影響力という意味でも圧倒的な力を持ってきた「右側の経済学—主流派経済学」が、格差の拡大が大きな影を落としている現代社会の中で果たして真の成長を導き出せるのか、と問うている。アベノミクスが依って立ついわゆるリフレ派の経済学も、異端と言われてはいるが基本的には右側の経済学の範疇に入るものだ。

だとすれば、「新しい資本主義」「分配と成長の好循環」とは、「分配」を出発点に、成長の足枷になっている格差の是正や国民の安心を実現する、要するに需要—消費サイドから成長を促していく政策への転換ということの意味しているはずである。とすればここでいう「分配」とは、給付金を配るとか手当を配るといった一時的な施策のことではないはずだ。付加価値分配の構造を変えなければ格差は是正できない。

まさに経済構造改革を目指すもの、依って立つ経済理論の転換を意味するものでなければならぬだろう。

2. 分配の歪みが成長を妨げる

今の日本経済には明らかに「分配の歪み」が生じていて、それが社会的厚生の実現を阻害しているだけでなく、持続的成長の足枷にもなっている。

日本は社会主義経済国家ではないのだから、付加価値は市場メカニズムを通じて分配されている。とすれば、取り組むべきは、現在の経済システムにおける「分配」の構造を改革することであり、さらには適切な「再分配」政策を実施すること。それこそが政治の課題となるはずだ。

「分配戦略なき成長戦略」は経済の持続的

成長を生まない。科学技術振興も再生可能エネルギー対策も国土強靱化もデジタル化支援も重要だろうが、そもそも今問われているのはそういった供給サイドからの成長戦略ではなく、「分配の歪み」をいかに是正し、経済の構造そのものを改革して自律的・持続的成長への道筋をつけていくのかということだ。痩せた畑にいくら種を蒔いても芽は出ない。

分配の歪みは、極めて深刻な事態を招いている。

第一に所得（賃金）の格差、すなわちフローの格差の拡大であり、フローの格差の集積の結果生まれている資産（ストック）の格差の拡大だ。

こうした格差の拡大は、労働分配率自体が低下する中で、中間層の崩壊や貧困層の増加を招き、そのことが社会の「遠心化」や不安定化を招き、消費の萎縮を招いている。

そしてもう一つの分配の歪みは、政府・家計・企業というマクロの3部門間の分配の歪み、具体的にいえば民間部門の過剰貯蓄と貯蓄投資のインバランスという問題だ。

国民経済計算を見れば明らかのように、日本は企業部門・家計部門に巨額の黒字が集中して累積し、一般政府部門が膨大な赤字を背負っている。

企業部門の黒字は、この20年間で2.5倍に拡大し、今や500兆になろうとしている。家計部門の貯蓄（金融資産）は、特定層（高齢富裕層）に集中し、貯蓄残高300万未満世帯が全世帯の30%を超える一方で、9.5%の世帯が全貯蓄残高の40%を保有するという二極化状態だ。

マクロ経済には、生産（供給）＝分配＝消費（需要）という、読者ご存じの「三面等価の原則」があるのだが、残念ながら、分配（付加価値の分配）に関しては、現実の市場は必ずしも最適解をもたらしていない。

それは、「社会厚生＝社会政策」的な観点で、必要な人に必要なものが公平に行き渡らないだけでなく、「消費性向の最大化＝有効需要の創出」という観点からも指摘することができる。

「分配の歪み」によって引き起こされる格差の拡大は、中間層の崩壊を招き、いずれ消費＝需要の鈍化、人的資本の劣化、そして投

資の縮小を招いて成長の足枷となる。

このことは2014年12月のOECDのレポート(“Trends in Income Inequality and Its Impact on Economic Growth” 邦題「格差と成長」)の中でも明確に指摘されている。

3. 財源を語らない政治の無責任

今回の総選挙における各党の公約でも、COVID-19対策、経済対策、さまざまな政策がそれぞれに掲げられていた。しかし率直に言って、各党揃って「バラマキのオンパレード」といわざるを得ない。

「大型補正」「〇〇兆円の経済対策」「消費税減税」「給付金・手当」、果ては「全国民月10万円のベーシックインカム」と、どれを見てもバラマキとしかいいようがないものばかり。COVID-19対策ということにすれば「何でもあり」状態だ。

確かに、コロナで傷んだ経済を癒やし、国民生活を守るため、世界中の国が大規模な財政出動をしている。それは事実だが、日本はすでに相当の大盤振る舞いをしている。

対人口比のコロナの累計患者数も死者もアメリカやイギリスの10分の1で、経済へのダメージも欧米に比べれば浅い。しかもコロナの中でも増収増益になった分野・企業も相当数あり、株高で所得を増やした富裕層もいる。

そんな状況で、日本のコロナ対策の規模は既に対GDP比で主要国最大規模だ。しかも全国民一律10万円にはじまる既存のコロナ対策の財源は全て国債、すでに総額100兆円の赤字公債を追加発行している。さらに岸田政権は2020年度の補正予算を上回る77兆円もの補正予算を組んだ。

日本の財政赤字は極めて深刻で、現役の財務次官が異例の論考を月刊誌に公表するような状況だ。コロナで人々の意識や行動に大きな変容が生じ、働き方や消費性向が様変わりしてしまった今、経済対策そのものの発想を変えなければコロナ後の経済回復は実現できないだろうことは明らかなのに、「対案」を提起すべき野党までもが揃いも揃って目先のバラマキを競っている状態だ。

給付金・手当の拡大を言い立て、他方で減税や免税、消費税率引き下げを掲げておきながら、与野党揃って誰も責任ある財源措置を

語らないというのはいくら何でも無責任ではないか。

子ども関係予算を倍増する、その財源として「こども国債」を提案する、という類の公約も同様だ。将来の子どものため、未来への投資と言いながら、その金を自分で出さずに将来の子どもたちに負担させるということではないか。

それがどうして「未来への投資」の名に値するのか。

出口戦略のない財政出動は結局バラマキに終わり、財政赤字、つまり将来世代の負担だけが残る。財政出動として何をやるのか、いかに効果的な財政支出をするのかはもちろん大事だが、それ以上にまずは財源の手当をどうするのかをきちんと示すべきだろう。諸外国と異なり、今の日本にはこれ以上財政赤字を積み上げる余裕はないはずである。

この点は政治家だけでなく、国民も感覚が麻痺しているように思えてならない。その金がどこからきているのかも考えず、もらえるものはもらってそれでよしとするのは、次世代に対する責任放棄でしかない。

4. 「一億円の壁」—金融所得課税をめぐる

岸田首相が総裁選の中で提起した金融所得課税の強化は、当然ながら資産家や証券会社系エコノミストたちからは評判が良くない。「貯蓄から投資へ」政策に反する、投資が冷え込む、増税=経済の足を引っ張る、というお決まりの反論だ。株価が下がったのも首相の「金融所得課税」への言及のせい、というわけである。

何であれ増税を喜ぶ人はいないのだから反発がでるのは当然だろう。しかし他方で、この間、日本は成長していないのに格差は確実に拡大していて、そのことが大きな社会の不安定化や国民の先行き不安、不満、そして消費の萎縮を招いている。

企業部門に500兆円近い内部留保があり、政府には1200兆円の借金=後代負担がある。株価上昇で資産を増やす一握りの超富裕層がいる一方、コロナ禍で多くの国民の生活が脅かされ、巷には非正規労働者ばかりが増え、給与は上がらないままだ。

所得が一億円を超えると実効税負担率が

下がっていく「一億円の壁」は、金融資産所得の分離課税が原因だ。これは古くて新しい「不公平税制」の代表例であり、この問題は単に財源対策としてだけではなく、「現時点まで積み上がってきた分配の歪みの集積の是正」という意味を持つ象徴的な対策でもある。格差是正を言うのであれば避けて通れない「政治の課題」なのではないのか。

結局この課題は来年度税制改正でも先送りとなってしまったが、目先のこと、自分たちのことだけを考えては、政（マツリごと）はできない。

5. バイデン演説にみえる為政者の使命感

欧米先進国が、アフターコロナを見据えた経済対策について、財政規律を意識し財源措置を明言するようになってきているのに、世界一財政が痛んでいる日本で、政治家も国民も財源論に無頓着というのは深刻かつ恥ずべき事態というべきである。

昨年4月、アメリカのバイデン大統領は最初の議会演説（日本で言う「施政方針演説」に相当する）の中で、3兆ドルの経済再生プランを打ち出した。だが同時に「このプランで財政を悪化させることはしない」として、富裕層への増税強化・キャピタルゲイン課税など、富裕層やコロナで収益を上げた企業への増税でこのプランの財源を賄う、と明言した。

バイデン演説の一部を引用しよう（筆者訳）。格差と成長と財政の問題を解決しようという為政者の覚悟と責任感、使命感を感じさせるものだ。

「この国を作ったのはウォールストリートではない。中間層がこの国を作ったのだ。」

「私の雇用と家族のための計画は、財政赤字を拡大することなく実現できる」

「私は年収40万ドル以下の人々への増税はしない。今はアメリカ人の最も裕福な1%の人々に公正な分担を—ただ公正な分担を—求めるべき時だ。」

「私は中間層の人々に追加の税負担を求めない。彼らはすでに十分に負担をしている。私の提案は財政に責任を持った公正なものだと信じる。この提案（富裕層への増税案）は、私の提案するプランを実行し、この国の経済

を成長させ財政を強化する数百万の雇用を創出するために歳入を引き上げるものだからだ。」

「トランプ政権が大減税をやった時CEOは何をしたか。給与も上げず投資もしないで、減税分を自分のポケットに入れた。労働者とCEOの給与差は今や320倍、歴史上最大になった。

パンデミックで2000万人のアメリカ市民が職を失っている間に、650人のビリオネアは資産を1兆ドル増やした。同じパンデミックの間に、だ。今や彼らの資産は4兆ドルを超える。」

「トリクルダウンなんて、起こったことはない。今は下から、そして中間層の人々の間から経済を成長させる時なのだ。」

6. 責任ある政策論議を

アメリカだけでなくドイツやフランスなど主要欧州諸国も、コロナからの回復過程で行う経済対策の財源を賄うために増税を行うとしている。アメリカ議会の中には「財政赤字が増えるくらいなら、増税が必要になるのなら、経済対策の規模を縮小すべき」という声すらある。

かつて、リーマンショック対応で大規模補正を組んだ当時の麻生太郎首相は、国会の本会議でこう述べている。

「75兆円もの大胆な財政出動を行うからには、中期の財政責任を明確にしなければならない。子や孫に負担を先送りしない、そのためには、安定財源確保に向けた道筋を従来以上に明確な形で国民に示す必要がある。」

その通りだ。

聞こえのいい公約も結構だが、将来世代への責任についても語るのが政治の責任というものだ。「責任ある政策」、「建設的な政策論議」を国民の前で展開してほしい。